

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったり、一緒に、楽しく、豊かに」を理念とし、その人のペースに合わせた地域との交流を持ち、豊かな生活が送れるよう支援している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「理念とは何か」を勉強会で学び、新しい職員も理念を実践できるよう働きかけている。カンファレンス時にも理念を基にケアの方向を考えている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議の時に伝えている。ホールの見やすい所に理念を書いて貼っている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ゴミ出し時や散歩の時等、こちらから親しみ深く挨拶の言葉をかけるよう心掛けている。行事への参加をお願いしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の一員として、地元の人と同じ活動をしている。お祭りの参加により、地域の若い人も理解を示して下さる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者の支援を通じて学んだことを、地域の方へも伝えるよう心掛けている。状況の応じた相談窓口等も紹介している。	○	在宅介護している家族に、認知症の症状や対応について、伝える機会を設け、思いやりや関心を示したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価により、取り組みの事実を見直すことができ、新たな目標が具体化してくる。客観的な評価により、改善に取り組むことができる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事やボランティアへの参加、利用者と一緒に食事をする機会等を設け、実際の生活を知って頂けるようにしている。意見は記録に残し、活かせるよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議に定期的に参加し、サービスの質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が少なく、活用できるよう支援することは難しい。	○	個人的に調べ、活用できるよう支援することは難しいため、研修等があれば積極的に参加したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	何が虐待に相当するかを伝え、言葉や態度にも注意を払っている。ケアが密室化することがないよう業務体制を配慮している。	○	高齢者虐待防止関連法について、正しい知識を学びたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	よく説明し納得をして頂いた上で、サイン・押印を頂いている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見は傾聴し、不満や苦情を運営に反映させたいが現在のところはない。		不満や苦情を気軽に言ってもらえるように心掛けたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に現状を伝え、体調の変化等は電話、手紙にて報告している。話し合いの必要がある時は、家族と職員で時間を設けている。	○	健康状態や認知症の進行等、常に家族が現状を把握できるよう伝えていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見はあるが、不満・苦情は現在のところほとんどない。あれば運営に反映させたい。	○	不満や苦情を言って頂けるような関係を築くよう努力したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一日3回のミーティングは月1度の勉強会の中で意見や提案があれば傾聴している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	要望に柔軟な対応ができるよう心掛けている。常に勤務の調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が明るく、楽しく働けるよう配慮している。また、それが入居者に対する態度やケアにつながると伝え、重く受け止めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の教育の向上を目指し、研修会に参加できるよう心掛けている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や連絡協議会で行われるレベルアップ研修会や見学研修など積極的に行っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事会や屋外でのバーベキュー等を行い、工夫をしている。	○	定期的に、あるいは個人的に意見を傾聴したり、時間を確保できるよう努力したい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	全体的に一生懸命働いているので、感謝の気持ちはメッセージや声かけで行っている。勤務は本人の希望を優先している。		職員の努力をしっかりと認め、また、価値観の違いや統一できることはしっかり伝えていきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が利用前に家族と共に見学を希望する時は喜んで受け入れ、不安なこと等を聴くようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いを傾聴し、その思いや希望を尊重した支援に努めることを伝えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の気持ちを優先し、その人にとって今一番必要なサービスは何かを見極めすすめている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になんとか馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今までの生活の中で大切にしていきたいことを配慮している。面会の頻度や外出等、家族と相談しながら徐々に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中で、役割を持ち、持っている力を活かせるよう働きかけている。共に家事ができることの感謝を言葉で伝えるよう心掛けている。	○	身体的に活動が限られている人に対しても、その人の価値を認め、共に生活できていることの喜びを伝えていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族としての思いや、抱えている問題を傾聴し理解を深めた上で、職員としての考えも伝え、一緒に支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	生活歴の記入や入所時、面会時等の会話の中でこれまでの関係の理解に努めている。今のよい関係が築けるような情報を提供している。	○	家族の中のそれぞれの立場を理解し、思いやりを示すことにより、皆が本人と温かい関係を築けるよう支援したい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方等の訪問を歓迎し、「また会いに行きたい」と思えるような家庭的な雰囲気を大切にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合えるよう、支え合えるように努めている	ホールでの席の配置に気を配り、状況に応じ席替えをし、安心して関わり、支え合えるような環境作りをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所されても、御見舞、葬儀への参列、新盆見舞には伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の好みや形態等、一人ひとりに合わせて提供している。衣類の洗濯や居室の整理等、その人なりの方法を大切にしている。	○	職員の価値観を持ち込まないように注意し、寛大な気持ちでありのまを受け入れるよう努力している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を入所時に書いて頂き、口頭でも詳しく聞くようにしている。ホームでの生活を観察し、不明な点は改めて家族に確認する。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝・夕のバイタルチェック、1日3回のミーティング、日課表の作成、個人記録、業務日誌などにより、総合的に把握できるよう努めている、精神的な変化に気づけるよう観察している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活歴や日常の言動やしぐさを観察し、その人らしさや本人の望むケアを導き出している。家族の希望も踏まえ、作成し、職員間で情報を共有している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身の変化は、ミーティングの中で伝え、変化が生じた場合は、検討し新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	午前・午後・夜間で一日の生活の様子を記録している。変化が生じた場合、業務日誌に記入し、個別記録に記入している。勤務に入る前に目を通し、確認し、情報を共有できるよう心掛けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は基本的には家族にお願いしているが、緊急時や家族の状況により職員がしている。買い物、衣類、寝具の管理等柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れも積極的に行い、民生委員と利用者間でも、友好的な関係が築けている。消防署の協力にて、避難訓練を実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じ、本人や家族の意向に合わせて、話し合い、支援したい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性に応じ、協働したい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医との関係を大切にしつつ、病状の変化により、病院を変更する時は、話し合い、適切な医療を受けられるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医の中に認知症に詳しい医師がいるため、服薬やケアに関し相談できる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	健康状態を看護職員に報告し、日常の健康管理を統一している。検査、治療の必要がある時は受診している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご家族、主治医との話し合いに同席し、情報交換に努めており、入院中も面会に行き、安心して過ごせるよう努めている。また、いつでも受け入れられるよう準備している旨を伝えている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在の病状や、今後の医療の必要性を医師より家族に伝えて頂き、ホームでのケアの在り方を話し合い、方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医に、グループホームの「できること・できないこと」を伝え、支援してもらえるよう取り組んでいる。今後の変化についてもカンファレンス等で検討している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	食事や排泄などの基本的な生活の様子、健康状態や内服、また、性格傾向等を情報提供として書面にて伝えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○	思いや希望をいつでも表出できるよう職員がゆったりとした姿勢を持ち自己決定を持続できるよう支援したい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	希望を表現することが困難な人にも心を寄せ、一人ひとりのペースを大切にしたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		身体的な変化の中で衣類の調整が必要な時にも、その人らしさを表現できるよう支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		ミキサー食の人のおやつも見た目も楽しめるよう、プリンやゼリー等の食べやすいものになっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターン合わせ、トイレ誘導の時間や回数を考え、統一することにより、失敗がないようにしている。トイレの訴え時には、すぐに応じるようにしている。		飲食物(ヨーグルト)、センナ茶等)により、自然な排泄が促せるよう支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一般浴は火曜日と金曜日、シャワー浴は水曜日と土曜日に行っているが、その日の体調や精神状態に合わせて、無理強いせずどちらの日でも入浴できるようにしている。		入浴時、朝からの心身の状態を考慮し、希望の時間やタイミングに合わせるようにしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自由に自床にて休めるような環境作りをしている。ソファでの休息時も静かに見守るようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職業や特技、趣味等を活かし、その人だけの役割とすることにより、喜びや張り合いが持てるようにしている。	○	自分にとっての楽しみや気晴らしが何であるかがわかり、表現できる人がいないため、その人らしい楽しみを探して行きたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じ、自室で管理している人や預かってもらう方が安心と思える人からはお預かりしている。買い物時は、自分の財布から支払いができるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自分から戸外に出たいとの希望はほとんどないが、人身の状態や気候に合わせて戸外に出掛けるよう努力している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎年、創設記念日には、入居者全員が家族、地域の人、職員と共に外食する機会を設けている。		レストランに事前に食事形態を伝え、きざみ食等に対応して頂くことにより、全員の参加が可能となっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたいとの要望があればすぐに応じ、留守の時は再度かけ直し、安心できるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室でお茶を飲みながら、ゆっくり会話できるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないケアについては、カンファレンスやミーティングで話し合い実践している。家族からの要望がある時は、最小限に行っている。	○	禁止の対象となる具体的な行為を詳しく学び、職員全員が正しく理解できるようにしたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全居室に鍵をかけず自由に出入りできるようにしている。玄関もドアを開け、外気を入れて開放的な時間を多くしている。		職員間で声を掛け合い、入居者全員の所在や様子に気を配り、ひとりで外に出ることがないよう見守っている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	その人なりのプライバシーに配慮し、所在や様子を把握しつつ、自由を制限することなく安全に生活できるよう配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	管理できる力に応じ、注意の必要な物品も自室にて管理しているが、状態の変化により危険な時はお預かりする。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	心身の変化により起こり得る事故を想定し、環境を改善している。ヒヤリ・ハットを書くことにより、事故を振り返り、再発防止に取り組んでいる。	○	事故を防ぐ知識を共有し、職員の事故に対する意識差をなくし、事故防止に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の方法をファイルし、定期的に勉強会を行い、看護師より学んでいる。消防署の協力により、救急車要請訓練も行っている。	○	消防署の普通救急救命講習を受講しているが、職員全員が定期的に受講できるようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得、年2回の避難訓練を実施している。その際には、地域の人へも声をかけ参加して頂いている。		夜間の災害等を考慮し、夜勤者を2人体制にしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	体調の変化や認知症進行による症状をその都度家族に伝え、起こり得るリスクについても説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝、夕のバイタル、食事量、排泄の様子等を記録し、1日3回のミーティングで報告している。異変の際には、速やかに受診している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬専用ファイルを作り、入居者全員の服薬の目的、副作用等が確認できるようにしている。服薬の支援はカンファレンスにて統一している。		薬ノートに現在使用している内服、外用薬のシールを貼り、個人ファイルに在中しているため、緊急時に役立っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を用い、一人ひとりのパターンを理解している。毎日、朝食時にヨーグルトを付けたり、センナ茶を飲んで頂くなどしている。		散歩や体操を共に楽しめるように努めている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きが習慣になるよう、声かけをし、見守りにてできるよう働きかけている。義歯の洗浄、うがいにより清潔さを保持している。	○	義歯や残歯がない人には綿棒を用い清潔にし、口腔内に食物が残っていないか確認している。舌磨きも徹底したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活歴から食べる量や習慣を知り、その人のペースで食事を楽しみながらも、栄養摂取が少ない時はアンシュアリキッドで補う等工夫している。		好みの飲み物を提供したり、食事にも汁物を付けるなどし、水分確保に努めている。嚥下障害のある人には、トロミを付けて飲みやすくしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は、早めに職員、入居者全員が受けるようにしている。ノロウイルス等、流行時には感染症対応マニュアルに基づき予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は定期的にハイターで除菌している。多量な買い置きはせず、その都度、買い物等に行き調理している。		裏庭で作った野菜や、地元農家の新鮮で安全な季節の野菜を使用している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近隣の住宅にとけ込めるように、一般家庭と同じような雰囲気作りをしている。玄関のドアも家庭的なものにし、草花をプランターに植えるなどし、安心して出入りできるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所からは、調理する音や匂いが感じられるよう心掛け、会話につなげている。玄関に季節の花を飾り、外気浴をし、陽射しや風を肌で感じるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファは会話を楽しみながらくつろげる場所となっている。玄関の長椅子を独りになれる居場所として活用している人もいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れたものや馴染みものを持参して頂くようお願いしている。ベッドの使用が難しい人に、畳部屋にし布団で安心して就寝できるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気温に応じ、窓や玄関を開け、換気している。ホールのファンを夏用、冬用に切り替え、常に回し、空気を循環している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を活かせるような居室場所を選択している。必要に応じ、手すりを付け安全で自立した生活が送れるよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	難聴の人には筆談にて意思疎通を図り、全盲の人には周囲の状況を丁寧に言葉で伝えることにより、混乱を防いでいる。		一人ひとりのわかる力を共有し、その人に合ったコミュニケーションの方法を統一している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前やベランダで外気浴をし、お茶を楽しむなどしている。ベランダでの洗濯物干しも、自分の役割として喜びを持っている。		裏庭で野菜作りをし、収穫や草取りを共に楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の業務に流されず、入居者中心のケアを実践する中で、「今日は何をすべきなのか。何ができるのか。」を考え、毎日の目標を持つよう心掛けている。一人ひとりの長期目標を念頭におきつつ、日々変化する心身の状態に早く気付くことができるよう、日頃の観察力を高める努力をしている。その情報を共有し、カンファレンス等でケアの統一を図り、望むケアに近付けるよう考慮している。「ゆったり、一緒に、楽しく、豊かに」を基本理念とし、その人らしいペースを大切にしている。一緒に生きることを楽しみ、心豊かで、安心した生活が送れるよう、ありのままを受け入れ、チームとして一人ひとりを支えられるような環境作りをして行きたいと思う。